F 2

女子短大生の短大家政科に対する意識について（第2報）

大妻大家政　○大竹智恵子・飯田朝子・小笠原ゆ里

目的　本学でのコース制実施後の新カリキュラムで教育を受けた短大生の本学短大家政科教育に対する意識について，在学生及び卒業生を対象に調査し，第1報において短大家政科教育に期待することや就業に対する意識について違いがみられたことを報告した。第2報では第1報に引き続き，新入生及びその父母，卒業生が就職している企業の人事担当者を対象に前回と同様の内容の質問紙調査を実施し，学生・父母や民間企業の人々が本学短大家政科教育に対しどのような意識を抱いているかを把握するとともに今後の本学短大家政科教育のカリキュラムを検討するための資料を得ることを目的としている。

方法　調査時期は新入生は昭和60年6月下旬，父母には昭和61年1月上旬～中旬，企業に対しては昭和60年7月下旬～8月上旬とした。調査法は，新入生は質問紙を配布し，記入後回収した。父母及び企業については郵送による質問紙法を実施した。

結果　①短大家政科を選んだ理由は，「女性としての幅広い教養を身につける」や「家庭生活に必要な知識・技術を身につける」の割合が高く，昭和59年調査以降この傾向はかわらない。②短大家政科に期待することは，学生や父母は主婦としての一般教養や家事技術を中心とした実際的教育を望んでいるのに対し，企業ではOLに必要な一般教養を身につけることを期待しており，それぞれの立場による違いがみられた。③本学短大家政科については，「伝統のある良妻賢母の建学の精神を生かした女子大学」が学生・父母・企業のいずれでも高い割合を示し，社会的にも本学家政科のイメージが定着していると思われる。今後は，これらの調査結果を検討しカリキュラムに反映して，その実践化を図りたいと考えている。